

## 韓国における現地情報

2023 年 7 月 10 日

麻布スリーエーコンサルティング合同会社

代表業務執行役 鈴木重幸



現在の釜山海雲台の様子です。

### アジアのレジャー都市、ソウル市が1位に

ソウル観光財団は2023年6月18日、米旅行専門月刊誌「グローバル・トラベラー（GT）」が開催した「第11回レジャー・ライフスタイル・アワード」で、ソウル市がアジアのレジャー都市1位に選ばれたと発表した。

ソウル市は、同市の名誉観光広報大使として6年以上活動している男性音楽グループ「BTS（防弾少年団）」をはじめ、「ソウルフェスタ 2023」や「漢江ドローンライトショー」などが高評価を受けたとみている。

ソウル市はこのほかにも、南山のNソウルタワーやロッテワールドなどの主要観光地でレジャーアクティビティを楽しめる外国人専用の「ディスカバーソウルパス」を運営。

こういった取り組みも、外国人がソウル市をレジャー目的で訪れる要因になっていると分析している。

### 韓国、歴代級円安で円テクに活気…輸出には冷や水

#### 【2015年以来8年ぶりのウォン高円安】

円の価値が下がり続けており円需要は急増している。日本旅行増加と「円テク（円＋財テク）」にともなう差益への期待感が反映された。一方で韓国政府と輸出企業の立場

では円安は喜ばしくない。

2023年6月18日の韓国金融圏によると、2023年6月16日午後3時30分にハナ銀行が告示した円相場は100円=903.82ウォンを記録した。2015年6月25日の897.91ウォンから約8年ぶりの円安水準だ。2023年4月末には100円=1000ウォン台で推移していたが、2カ月で100ウォンほど円安が進んだ。

このため、円が安いうちに買おうとする需要が増えた。韓国4大都市銀行が先月円に両替した金額は301億6700万円だ。2023年4月の228億3900万円より73億2800万円増えた。2022年の62億8500万円と比較すると約5倍に増加した。まず円を安く買って日本旅行の時に使おうとする心理が反映されたと分析される。

日本政府観光局の集計によると、2023年1～4月に日本を訪れた韓国人は206万7700人で前年比（2022年）125倍に増えた。

円投資も人気だ。4大都市銀行の円預金残高は2023年6月15日基準で8109億7400万円だ。先月末（5月末日）の6978億5900万円より16%増えた。今後円が上昇に向かうとみられ、底値で投資した人が増えたのだ。

最近高止まりしている日本の証券市場に対する投資が増える「バイ・ジャパン」現象も現れた。韓国大手証券会社8社に預置された円預金と日本株式評価金額は2023年6月15日基準で4兆946億ウォンと集計された。約1年前の昨年6月末の3兆1916億ウォンから28.3%増えた。預託決済院によると先月の韓国人投資家の日本株式取得件数は7757件で1～4月平均の5625件を大きく上回った。今月も2023年6月18日現在5900件に達する。「歴代級」の円安が旅行費用を引き下げ、うまみのある稼ぎを得る機会もくれた形だ。

だが、韓国経済全体の立場では円安長期化が悪材料になる恐れがある。日本への旅行者が増えれば旅行収支赤字幅がさらに大きくなり経常収支にも悪影響を及ぼす。すでに1～3月期の旅行収支赤字規模は32億3500万ドルで2019年7～9月期の32億8000万ドルの赤字以降で最も大きい。現代経済研究院は「コロナ禍後に韓国人の日本などへの海外旅行客数急増の影響で旅行収支などサービス収支赤字が深まるだろう。サービス収支赤字拡大は今年の経常収支悪化を誘発する可能性が大きい」と診断した。

輸出回復傾向にも円安が冷や水を浴びせかねない。韓国関税庁によると今月2023年6月1～10日の輸出額は前年同期比1.2%増加した。1～10日の輸出額が前年よ

り増えたのは2月の11.6%から4カ月ぶりだ。ところが円安は日本と輸出競争力が高い韓国の自動車や鉄鋼などの輸出競争力を引き下げかねない。韓国経済研究院は対ドル円相場が1%下落すれば韓国の輸出量は0.2%、輸出金額は0.61%低くなると分析した。延世（ヨンセ）大学経済学部のカム・ジョンシク名誉教授は「過去より為替相場の影響は減ったというが、依然として円安は韓国の輸出品の価格競争力を下げ、輸出に否定的な影響を及ぼす恐れがある」と話した。

円安基調は当分続く可能性が大きい。日本銀行は2023年6月16日の金融政策決定会議で短期金利をマイナス0.1%で据え置き、長期金利指標である10年物国債金利は0%程度に誘導する大規模金融緩和政策を維持することにした。カム教授は「日本は輸出増加に向け米国の高金利に円安で対応している。ドル＝ウォン相場が過度に上昇して貿易収支に悪影響を与えないように管理しなければならない」と話した。

## 100円=904ウォン、韓国で円建て預金ブーム

■長期平均は100円=1000ウォンだが

今円を買った投資家は最後に笑うことができるだろうか。今後円がどの方向に振れるかについて、主な投資銀行は全体的に「円高」を予想している。米国の利上げ終了が近づき、米国債の利回りが低下。日本の国債利回りとの差が縮小するなどしてドル安に振れれば、円は相対的に上昇するとの見方だ。JPモルガンは「日銀の政策正常化は長く漸進的なものになる可能性が高いが、結局は円高を示すと予想する」とし、円買いポジションを有望視した。

## CCCと現代自、日本でZEV事業推進

カルチュア・コンビニエンス・クラブ（東京都渋谷区、CCC）は2023年6月22日、韓国完成車大手の現代自動車と、ゼロエミッション車（ZEV）時代の共創パートナーとして協業することで合意したと発表した。

CCCと現代自は、◇新たなモビリティサービスの創出◇ZEV拡大のためのマーケティング協業◇グローバル電気自動車（EV）体験プラットフォームの開発および拡大――の3事業で協力する。まずは、CCCが渋谷区で運営する商業施設「代官山T-SITE」で2023年6月23日から、現代自のカーシェアリングサービス「モーシャーン（MOCEAN）」を開始する。利用者は現代自のEV「アイオニック5」と専用充

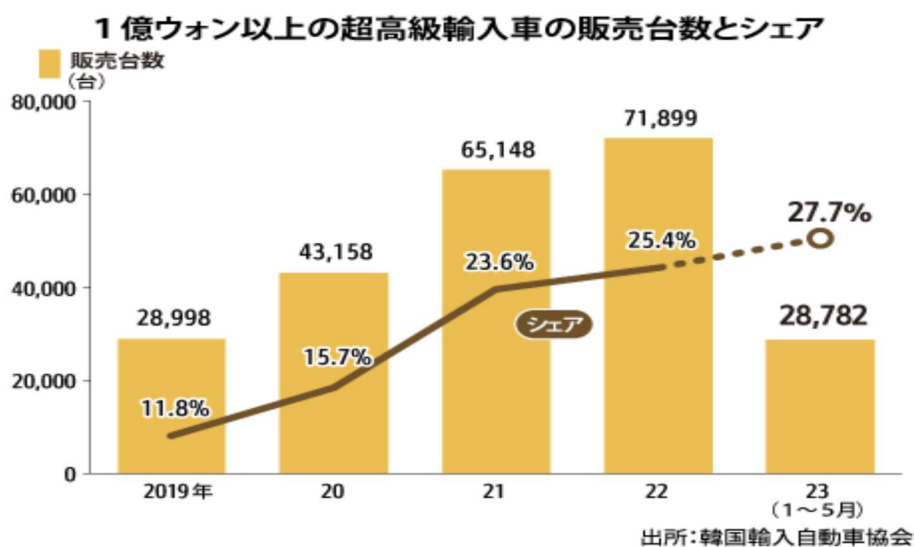
電器の利用が可能だ。現代自はすでに横浜や沖縄でモーションを展開しているが、今後はCCCの他の拠点でのサービスも検討する。両社はまた、CCCが保有するビッグデータと現代自の車両データを活用して、新しいライフスタイルの提案に向けたデータマーケティングにも取り込む。

## エアソウル、ドンキホーテと割引キャンペーン実施

韓国格安航空会社（LCC）のエアソウルは2023年6月29日、総合ディスカウント店「ドン・キホーテ」などを運営するパン・パシフィック・インターナショナルホールディングス（PPIH）と提携し、日本への旅行者向け割引キャンペーンを実施すると発表した。

エアソウルの利用者には、ドン・キホーテで計1万円（税抜き）以上購入時に5%の割引を受けられるクーポンが提供される。期間は2023年6月29日から2024年5月31日までの約1年間で、日本国内のドン・キホーテ全店舗が対象だ。クーポンは、同社ホームページとモバイルアプリからダウンロードできる。このほかエアソウルは、京成電鉄の特急電車「スカイライナー」の割引イベントも実施している。日本旅行者の増加を受け、さまざまな特典からシェア拡大につなげたい考えだ。

## 超高級自動車の販売台数とシェア



特に、ドイツのポルシェやイタリアのランボルギーニ、英国のベントレーの成長が著しい。ポルシェは今年1～5月に前年同期に比べて27.1%増の計5,111台を販売した。

ポルシェが韓国で販売しているモデルでは、スポーツタイプ多目的車（SUV）「マカン」を除いた全モデルが1億ウォンを超える。

通年の販売台数を見てもポルシェの存在感は強い。2018年は4,285台だったが、昨年は8,963台と4年間で2倍以上に増えた。同期間の輸入車におけるブランド別ランキングでは15位から8位に浮上。トヨタとレクサス、ホンダの日系ブランドよりも順位は高い。

ランボルギーニとベントレーも今年1～5月の販売台数が前年同期比でそれぞれ、26.5%、11.0%増えた。ランボルギーニは3月（8台）を除いた全ての月で前年同月を上回った。また、独メルセデス・ベンツや独BMWなどの輸入車メーカーでも、ハイエンドクラスのモデルは人気だ。メルセデス・ベンツで1億ウォンを超える「Sクラス」は昨年1万3,000台以上を売り上げ、最も売れた輸入車モデルの3位に入った。

背景に「見えの文化」か超高級車の販売が伸びている理由としては、新型コロナウイルス感染症のリベンジ消費や韓国人の所得増加などの経済的な要因に加えて、韓国特有の「見えの文化」があるとみられる。韓国人は、大きくて高級な車を所有することを人生の重要なステータスと考える傾向が強い。そのため、国内の自動車市場では大型車の比率が高まる。

## 新車公開など販促活発に

これらを受け、輸入車メーカーは韓国の消費者を取り込むための広報・マーケティング活動に力を入れ始めた。アジア太平洋地域での新車の初公開場所として、韓国を選ぶメーカーが増えている。

英ロールス・ロイスは2023年6月16日、同社初のEV「スペクター」を韓国で公開した。アジア太平洋地域での公開は韓国が初めてで、今年下半期に発売する予定という。同社アジア太平洋地域ディレクターのアイリーン・ニッケイン氏は同日の公開イベントで「スペクターは電動化された未来を代弁するラグジュアリーセグメントの真のゲームチェンジャー」と強調した。英ベントレーは2023年2月、同社のビスポーク部門「マリナー」の最新モデルである「マリナー・バトゥール」の公開イベントを、ソウル市で開催した。22年8月に発表された同モデルがアジア太平洋地域で公開されたのは、韓国が初めて。ベントレーのクリスティアン・シュリック常務は同イベントで「『アズール』や『S』といった新グレードを年内に韓国で発売し、顧客のニーズを完璧に満たすことができるサービスを導入する」と述べた。今年1～5月の新車登録台数のシェアで24.6%を記録した輸入車の快進撃は、今後もしばらく続く可能性が高い。

出稿元：朝鮮日報・中央日報・韓国連合ニュース・ハンギョレ新聞及び  
The Daily NNA 韓国版

今回の情報の中で特に日本企業のコロナ明けの本格的な韓国投資が目立ち始めた。  
飲食事業を国内展開している和民さんもソウルに居酒屋を OPEN させた。  
ブランド「わたみ」の韓国1号店（ソウル市松坡区）が好調だ。  
周辺には裁判所や検察庁、知識産業団地などがあり、日本を連想させるこぢんまりとし  
た雰囲気や、コストパフォーマンスの良い料理などが評価されているようだ。  
コロナで出店を断念した皆様にとっては今がチャンスかもしれない。

アザブスリーエーコンサルティング合同会社  
AZABU AAA CONSULTING LLC  
<http://www.azabuaaaconsulting.com>